



## 県 P 研究大会



文責 本宮小学校長 佐久間仁

十月十二日に、郡山市民文化センターにおいて、県のPTA研究大会が開催されました。「楽都郡山で奏でる、人と地域のハーモニー」の大会主題のもと、全体会、記念講演、分科会が行われ、県内各地より集った千名を越す会員が研修を深めました。全体会では、昨年度安達地方PTA連合会副会長を務めた、本校の菅野陽一会長に表彰状が贈られました。その後、芥川賞作家で三春福聚寺住職の玄侑宗久氏による記念講演が行われました。分科会では、それぞれのテーマに基づいて講話があり、質疑応答など、活発に意見が交わされました。その一部をご紹介します。

### 「講演「星とスマイルを見つめよう」

・星は、遠くにあるもの、スマイルは近くにあるもの。大事なものは

の両方で、中間ではない。

・学校では、中間目標（〇〇大学等）を設定して、努力することを生徒に求めるが、勝ち続ける人は少ない。ほとんどは負ける。でも、負け方は教わっていない。（負けたときのフォローも十分ではない。）  
・人生は旅に例えられるが、旅は単なる移動（最短・最速で目的地を目指すもの）ではない。予期せぬものとの出会いこそ大切。

・私は受験に落ちて浪人をしたときに、アルバイトなど豊かな人生経験をした。それが後に作家としての仕事の役に立った。受験に落ちることは決して失敗ではない。  
・日本は、小中高校生の自殺率が高い。自分は幸せと感じている若者が少ない。先生方も元気がない。中間目標（〇〇大学等）にしばらく過ぎていく。頑張って戦って、勝つことのみになっていないか。負けること（受験に落ちること）は決して負けてではない。

・約束を絶対に破らないという人は信用できない。約束をほとんど破らない（たまに破る）という人こそ信用できる人。なぜなら明日になれば我が子が熱を出して仕事を休まざるを得ない（状況が変わることもある）のだから。

・星ははるかかなたにあり、転んでも見えなくなることはない。

### 「講話「未来の主役となる子どもたち」(安藤塾代表 安藤大作氏)」

・三十年前、物質的な豊かさを追い求めていた時代、均一のものを作ることができる早く正確に作るものが大切だとされていた。

・学校でも、苦手をなくすことをめざし、生徒は聞き分けがよく、先生に好かれることが大事で、規律を守ることが重んじられていた。  
・人口減少時代に入り、物が売れなくなると、より个性的で、獨創性があり、奇抜なものもてはやされるようになる。

・学校においても、得意なもの伸ばすことに重きがおかれるようになる。苦手は得意な人とつながることではなるとかかると考える。  
・社会科の応仁の乱は、昔は年代を覚えるのが大事だったが、今は自分が時の権力者だったら、この乱をどう戦うか、またはどのような戦いをしずめるかを問われる。  
・大学入試で、グーチョキパー以外に四つ目の出し方を考えて、新たなルール（遊び方）を考えるところという問題が出された。その人の個性・獨創性が試されている。

・学校では、不登校、いじめなどの問題がある。デジタル化や学校施設（プール等）の老朽化、部活動等、課外活動による教員の長時間労働などの問題も山積している。

・ある自治体では、学校の水泳指導を民間に委託した。また、習い事のクーポン券を出して、習い事に通うことで得意を伸ばすような取組を推奨している自治体もある。だが、他のほとんどの自治体ではできない。（十分な予算がない。）  
・学校間、自治体間で差が生じる。  
・保護者（PTA）は学校の現状や他の自治体の取組を知って議論をすることが大切。子どもたちの教育環境改善のために、声を上げる（世論を起こす）ことが必要。

## 本部役員会



十月十五日、PTA本部役員会を開催しました。今後の各委員会の活動や次年度の学年・専門委員の選考などについて協議しました。委員会の再編に伴う変更点、特に、給食着の点検、修繕をどうするかなどが話題になりました。今後、会員からの意見を参考に、担当委員会を中心となり、次年度以降の方向性が示される予定ですので、ご理解、ご協力をお願いします。また、来月、学年・専門委員によるベルマークの集計作業が予定されていますので、各ご家庭におかれましては、引き続きベルマーク収集へのご協力をお願いします。